

# 津波避難タワー第1号完成



■防災対策課 ☎57-8501

市では全21基の津波避難タワーを計画、順次建設しています。この度、吉川町長島地区に建設していた吉川町西南津波避難タワーが完成しました。

市内初となる津波避難タワーの内部をご紹介します。今後完成するものも基本的に同様の使い方となりますので、避難の仕方を覚えておいてください。

## 吉川町西南津波避難タワー基礎情報

構造	鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造(階段・スロープ)
収容人数	122名
避難階の高さ	地上9m・海抜15.45m
避難階の広さ	136.5㎡

## 避難の仕方をシュミレーション!



1 平常時は入口に鍵がかかっています。緊急時、入口の板を手で割ると開錠することができます。



2 最上階まで登ります。途中で止まらないように!(スロープもあります)



3 最上階到着です。入口から走って約1分!

**津波が完全に収まるまで安易に移動しないように!**

## 施設の機能



仮設トイレ置き場など



備蓄庫



避難後は簡易の避難施設として利用できるように、備蓄品や仮設トイレを設置できるようにしています。

また、太陽光自家発電のLED照明のほか、蓄光材を使用し、スロープや階段を夜でも見やすくしています。

**津波避難タワーはみんなの命を守るための施設です。正しい利用を心がけて大切にしましょう。**

- 非常時以外は無断で使用しない
- 施設内へ勝手に入ったり、施設の中で遊ばない
- 落書きをしたり傷つけたりしない

## お知らせ

8月の台風12、11号被害に対し、市では災害復旧対策チームを組織し、順次、復旧工事発注に向けて取り組んでいます。現地へお伺いした際にはご協力をよろしくお願い致します。

—建設課・農林課—



# 広島土砂災害を目の当たりにして



9月9日(火)、10日(水)の2日間、レスキユア龍馬会のメンバー5名とともに広島土砂災害のボランティア活動をさせていただきました。被災地の状況は報道等で把握していましたが、現場に足を踏み入れた時、その被害の大きさに愕然となり声を失いました。家屋が丸ごと流され、団子のように丸くなった車や崩れ落ちた直径2〜3メートルの大きな岩がごろごろと転がっている光景に、改めて土石流の恐ろしさを実感させられました。

私たちは、災害発生直後から活動している消防職員・OBを中心とした災害ボランティアチーム「集結」のメンバーと活動を行いました。被災された方々の様々なニーズの中から、床下にある瓦礫や土砂の除去など危険が伴う場所での活動や重作業が継続する現場での活動をお手伝いをしていただきました。被災地には連日たくさんの方のボランティアが駆け付け、活動の調整にあたる災害ボランティア本部も運営に関わるスタッフの大部分が県外からのボランティアで確立されていました。

その対応は、初めて顔を合わせる者同士とは思えないほど連携がとれており、個人の持つ能力とこれまでのノウハウが上手く融合した臨機応変な対応の確、迅速な人員の割り振りが行われていました。香南市においてもボランティアの受け入れ体制や運営方法を事前に構築しておくことは大変重要なことであると思われました。

私は、広島土砂災害でのボランティア活動を通してたくさんの方の事を学び、そして考えることができました。土石流の恐ろしさを実感する中で、山間部地域の方々個々の防災意識の向上は喫緊の課題であると感じました。また、個々の防災意識の向上には「命」や「絆」が深く繋がっていることも改めて感じました。被災地はまだたくさんの方の支援を必要としています。一人ひとりが自分にできる支援をすることがとても大切だと思います。被災地に想いを寄せることも支援の一つです。いずれも、私たちにあって、南海大地震が発生したときの大きな支えに繋がっていくでしょう。私はこれからも「命」「絆」の持つ意味を大切にしながら、地域全体の防災力の向上と減災に向け、自分ができることを考え、全力で取り組んでいきたいと思っています。



久保雅裕

8月20日、広島市内を襲った土砂災害は、建物損壊が約430棟、死者74人を数える大惨事となりました。まだまだ多くの土砂や流出物がそのままだった9月当初、香南市から災害ボランティアとして久保雅裕さん市消防本部が現地での活動をしてきました。「市民の皆さんに知っていただきたい」と、現地での活動の手記をいただきましたので抜粋してご紹介します。



※レスキユア龍馬会：高知県下の消防職員を中心とし、警防技術の向上を横の繋がりを通して高め合うことを目的に結成した自主的な勉強組織

## 防災イベント

防災を体験! 楽しく学ぼう! **防災★子どもフェス 2014 in こうなん**

11月22日(土) 10時~15時

県立青少年センター

雨天でも開催・大人も参加可

■問い合わせ 市消防本部 ☎55-4141

防災教室(身の回りの物で物作り)、消防車・救急車の乗車体験、炊き出しカレー・非常食試食、古代の火おこし体験など